



(伝)人塚古墳出土の蓋形埴輪

— 今里幾次コレクションより —

展示されている埴輪は、今里氏の記述によると人塚古墳(加古川市)から出土したとあり、埴輪にも直接「人塚」と書かれています。

「蓋形埴輪」といい、貴人にさしかけるための蓋と呼ばれる傘を模したもので、軸受部が大きく開くのは本資料の大きな特徴といえます。同じような特徴をもつ蓋形埴輪は、五色塚古墳や舞子浜遺跡(神戸市垂水区)、そして人塚古墳と同じ西条古墳群の行者塚古墳(加古川市)から出土しています。

1973(昭和48)年、人塚古墳は行者塚古墳、尼塚古墳と共に「西条古墳群」として国の史跡に指定され、加古川流域だけでなく、古墳時代中期の地域社会を考える上で非常に重要な古墳群であると評価されました。また、人塚古墳は2008(平成20)年から史跡整備事業の一環として発掘調査が行われ、円筒埴輪、朝顔形埴輪、形象埴輪(家、蓋、靴、盾、鶏)などが出土しています。

なお、今里幾次コレクションには、人塚古墳から出土したと伝わる同様の埴輪が他にも二個体あり、特別展示室で展示しています。